

～南海グループ内のリソースを有効活用した異業種連携施策～

徳島バスの一般路線バスを活用した宅配弁当輸送（貨客混載）の実証実験について

徳島バス株式会社（取締役社長 金原 克也、以下「徳島バス」）と高齢者専門宅配弁当「宅配クック123」店舗をフランチャイズ運営する株式会社アビック（取締役社長 田中 健司、以下「アビック」）は、2025年2月14日から、一般路線バスで運ぶ宅配弁当（貨客混載）の実証実験を実施しますので、以下のとおりお知らせいたします。

両社は、関西私鉄の南海電気鉄道株式会社を親会社とし、南海グループが現在推進している中期経営計画「共創140計画」において、「公共交通事業のサステナブルな経営」を事業戦略の1つに掲げており、同方針の取り組みの1つとして石井・高原線（徳島駅前～平島東）において貨客混載の実証実験を実施し、公共交通事業の深化と地域との共創を推進します。

## 1 事業（実証実験）の背景

近年の物価高騰や人件費の急上昇、バス事業を取り巻く環境の変化等により、両社の商品・サービスにおいても、従来の事業形態・体制では対応が困難になってきたものや、現時点では対応できていても、将来にわたっての維持・継続が保証できないものなどが出てきております。

そこで、それぞれの事業や商品・サービス提供を今後も維持・継続していくため、従来の考え方にとらわれない柔軟な対応を検討した結果、今回の貨客混載実証実験を行うに至りました。

定時定路線の乗合バスに弁当を乗せて配送拠点まで運ぶことで、製造拠点から個別に配送するよりも時間や手間の負担を軽減でき、また、より広いエリアにサービスを提供することが可能になります。バス事業においても、人以外のものを運ぶことが可能になれば、同じ運行経費で運賃収入が増加することになり、ひいては路線の維持の一助となる可能性も秘めていることから、両社及び地域の住民の皆さまにもメリットの大きい取り組みとなります。

## 2 事業（実証実験）の目的

- (1) 乗合バス事業における地域社会インフラとしての社会的存在意義の確立
- (2) 乗合バスを活用することで、既存の交通インフラを最大限に利用し、効率的に物資を届け、輸送コストやCO<sub>2</sub>排出量の削減を図る
- (3) 地域交通の維持を目指すとともに、栄養バランスの採れた食事を手渡しすることで高齢者の健康維持や社会とのつながりを持つ機会を提供

## 3 実施日

2025年2月14日から当面の間

#### 4 事業（実証実験）のスキーム（※赤色部分＝アビック、青色部分＝徳島バス）

- (1) アビック担当者が宅配クック123徳島店から徳島バス徳島営業所に商品運び、乗合バスに積み込み（アビック）
- (2) 乗合バスが貨客混載でバス停（平島東：名西郡石井町）まで配送（徳島バス）
- (3) バス停でアビック担当者が商品受け取り（アビック）
- (4) バス停近接の配送拠点より対象エリアの顧客に配食（アビック）



#### 5 事業モデル路線と対象顧客

##### ① モデル路線 石井・高原線

昼食（全日）	徳島駅前 発	9：30	平島東 着	10：14
夕食（平日）	徳島駅前 発	14：00	平島東 着	14：44
夕食（土日）	徳島駅前 発	15：30	平島東 着	16：14

##### ② 対象顧客

個人	石井町・上板町・板野町・吉野川市（鴨島駅周辺）
施設	上述各市町内の高齢者施設

#### 6 今後の展望

実証実験の実施・検証を踏まえ、宅配弁当以外の生活用品等の輸送について検討を行います。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

#### 【本件に関するお問い合わせ】

徳島バス株式会社	総務部（担当：原）	TEL (088) 622-1814
株式会社アビック	宅配事業部（担当：十川）	TEL (088) 698-0775

1. アビック（宅配クック123徳島店）から徳島バス（徳島営業所）へ受け渡し



2. バス停（平島東）からアビックへ受け渡し



3. 顧客に配食

